

福井県大飯郡高浜町におけるミズゴマツボの初記録

岡本 聡真*

The first record of *Stenothyra japonica* from Takahama Town, Fukui Prefecture.

Soma OKAMOTO*

(要旨) 2025年12月7日、福井県大飯郡高浜町和田の水路でミズゴマツボを採集したため、同町初記録として報告した。生息環境や、同所的に見られた貝類についても記録した。本種は絶滅が危惧されており、生息地が局所的であることが多いにもかかわらず、幅広い塩分の環境で発見されている。今後は新産地を探索し、生息条件を特定することで、保全策を立てるための情報を揃えることが望まれる。

ミズゴマツボ *Stenothyra japonica* Kuroda, 1962 は、タマキビガイ目 Littorinimorpha, ミズゴマツボ科 Stenothyridae に分類される、殻高 4 mm 程度の卵型の巻貝である。本種は岩手～秋田県～九州と朝鮮半島南部に分布し、海岸近くの平野部の水路や水田等の軟泥底表層や、塩分の低い汽水から淡水にまたがって見られ、止水や緩い流水中の泥上や植物上、転石上を匍匐するとされる (日本ベントス学会, 2012)。

本種は環境省レッドリスト (環境省自然環境局野生生物課, 2020) では絶滅危惧Ⅱ類、福井県レッドデータブック (福井県安全環境部自然環境課, 2016) では県域絶滅危惧Ⅱ類にランク付けされている希少種である。福井県における生息地として、これまでに三方五湖の一つである菅湖 (松田・石田, 2010)、九頭竜川河口 (福井県安全環境部自然環境課, 2016) が報告されている。しかし、三方五湖では菅湖以外の生息地が報告されておらず、九頭竜川河口でも生息範囲は極限されるといわれている。それ以外の生息地は知られていない。

筆者は2025年12月7日、福井県大飯郡高浜町でミズゴマツボの生息を確認したため、ここに報告する。

生息状況

2025年12月7日、福井県大飯郡高浜町和田の水路でミズゴマツボを採集した。当水路は片間川に流入する、幅約50cmの農業排水路である。三面コンクリート護岸が施されているものの、底には砂泥が堆積していた。調査時、塩分は0%であったが、下流から上流への緩やかな流れが見られたため、潮汐の影響を受けていると考えられる。上流には「和田ビオトープ」と呼ばれる、汽水池を含んだ湿地状のビオトープ (松井・増田, 2018) があり、その流出部に当たる水路の上流端には、枯草の堆積している場所があった。枯草をタモ網で掬うと、中にミズゴマツボが少なくとも10個体以上入っていた。その中には、殻高が低く、殻口が狭まっていない、幼貝とみられる個体も含まれていた。同所的にサカマキガイ *Physella acuta* (Draparnaud, 1805)、淡水性とみられるシジミ属の一種 *Corbicula* sp. といった淡水貝類が確認された。下流約100m地点および水路合流部の片間川本流でも同様の調査を試みたが、下流でカワザンショウガイ *Assimineia japonica*



図1. 高浜町で採集されたミズゴマツボ (高浜町和田, 7-XII-2025, 岡本聡真採集・保管)

* 福井県海浜自然センター 〒919-1464 福井県三方上中郡若狭町世久見18-2
Fukui Coastal Nature Center 18-2, Sekumi, Wakasa, Fukui 919-1464, Japan
E-mail: okamotos0330@gmail.com

Martens, 1877, 片間川でホトトギスガイ *Musculista senhousia* (Benson, 1842) が確認されたのみで、ミズゴマツボは確認されなかった。

標本

ミズゴマツボ *Stenothyra japonica* Kuroda, 1962
福井県大飯郡高浜町和田, 10ex., 7-XII-2025, 岡本聡真採集

考察

これまで高浜町でミズゴマツボが確認されていなかった理由として、本種の生息環境が特異であり、これまでそのような環境での調査は行われていなかったことが考えられる。兵庫県版レッドリスト2014（兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課, 2014）では、兵庫県赤穂市の水門によって河口がほぼ閉鎖された河川での本種の生息が報告されている。河口近くのカワザンショウ類が生息する辺りでは生息が確認できないという記述は、高浜町の生息地と一致する。一方、松田・石田（2010）では若狭町菅湖でカワザンショウガイと共に本種の生息が報告されている。反対に、黒住・岡本（1994）では千葉市の海岸から8 km内陸の水田で本種の生息が報告されている。以上のように本種の生息地は局所的であることが多いにもかかわらず、カワザンショウガイが生息するような汽水域から、ほぼ完全な淡水域まで、幅広い塩分の環境で発見されている。調査が進めば、高浜町内の他の地区や、福井県内の他の市町村でも新産地が見つかる可能性がある。冒頭で述べたように、本種は絶滅が危惧されており、保全の重要性は高い。今後は新産地を探索し、塩分、栄養塩、底質など、様々な視点から生息条件を特定することで、保全策を立てるための情報を揃えることが望まれる。

謝辞

本稿を作成するにあたり、NPO法人中池見ねっとの藤野勇馬氏には、投稿に関して便宜を図って頂いた。弘前大学大学院修士課程1年の五十野悠氏には、ミズゴマツボを標本化する際の肉抜き方法について助言を頂いた。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

引用文献

福井県安全環境部自然環境課, 2016, 改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物. <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/shizen/rdb/rdb.html>. 参照日

2026年1月2日

兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課, 2014, 兵庫県版レッドリスト2014（貝類・その他無脊椎動物）. https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/leg_711. 参照日 2026年1月2日

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2020, 環境省レッドリスト2020. <https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>. 参照日 2026年1月2日

黒住耐二・岡本正豊, 1994, ミズゴマツボを千葉県の水田で確認. ちりぼたん, 24(3-4), P84.

松田征也・石田未基, 2010, 福井県若狭町の菅湖で確認されたミズゴマツボ. ちりぼたん, 40(3-4), 134-137.

松井 明・増田栄之, 2018, 和田ビオトープ（福井県高浜町）の設計およびモニタリング調査. 応用生態工学, 20(2), 221-229.

日本ベントス学会編, 2012, 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック—. 東海大学出版会, 秦野市, 45p.